

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番23	福山市立 城西中 学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月 3日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○学習に対する取組みは、各校とも一定の成果が出ており、小中ともに児童生徒が意欲的に学びに取り組んでいる様子がわかる。</p> <p>○コロナ禍でできなかった様々な活動や行事ができるようになり、子ども達が生き生きと楽しく学校生活を送っていると感じられる。</p> <p>●デジタル機器の活用は必要だが、それにより家族等との会話が少なくなることが心配だ。</p> <p>●読書活動など、各校の良いところをお互いに取り入れていくことが大切である。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「子ども主体の学び」の実現に向け、校区で研究・実践を継続し、授業改善が進んでいる。</p> <p>○行事等を通して小中の連携が図られ、意欲的に頑張る児童生徒の姿が多く見られる。</p> <p>○コロナの状況も落ち着き、学校行事を中心にあらゆる活動に主体的に取り組み、自分たちが学びを創り上げるという意識が高まった。</p> <p>●コロナ禍の影響もあり、長期欠席者が多い状況がある。引き続き、小中が緊密に連携し、丁寧な取組を行っていく必要がある。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>地域に愛着と誇りを持ち、心豊かにたくましく生きる子ども</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○自己肯定感を高める。(小中合同ボランティア活動・中学校オープンスクール)</p> <p>○コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける。(校区公開授業研究)</p> <p>○健康への意識を高め、体力向上を図る。 (体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行)</p>

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「明るく生き生きと安心して生活できる学校」をめざし、生徒、保護者、地域、職員が誇りを持てる学校づくり、全ての人から愛される学校づくり。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成</p>	<p>めざす子ども像 全学年</p> <p>○自分を理解し、お互いを認め合い、高め合う生徒</p> <p>○自ら疑問や課題を見つけ、解決に向け、自分や仲間と考え、学び続ける生徒</p> <p>○自分たちの生活をより良くするために、仲間と協力し、粘り強く取り組む生徒</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>・生徒アンケートにおいて、「授業を通して、各教科の学習方法がわかる」「授業を通して、以前より教科の力(学び方、考え方)が身についた」と回答した生徒の割合は80%を超えており、学習方法を理解し、教科の力を身に付けている生徒は確実に増えている。しかし、「授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思った」「学校の授業の予習や復習をしている」と回答した生徒の割合はそれぞれ75%、70%であり、学習にまだまだ意欲的ではない生徒や主体的に学習しようとする姿勢が持てていない生徒もまだ一定数存在する。</p> <p><授業・実践></p> <p>・各教科において、課題解決型の学習を軸に授業実践を行い、生徒が主体的に学ぶ学習を進めている。また、逆向き設計による授業づくりや振り返りシートの活用によって、系統性を持った指導、評価を実施し、生徒の学力定着を図っている。中でも、生徒に振り返りシートを書かせることで、理解できていること、いないことを明確にさせ、自らの主体的な学びにつなげられるように取組みを進めている。</p> <p>・「学校生活が楽しい」と肯定的に回答する生徒は90%を超えているが、不登校生徒が多い。定期的に不登校対策委員会を開き、教職員間の連携を深め、組織的な取組みを進めているが、長期欠席者の状況改善を実現するには、さらなる工夫が必要である。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ 主体的な学びをめざした授業づくり PART I ～問題解決的な授業を通して～</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「逆さ論」単元末を見据えた構造的な単元指導計画の作成 ・問題解決的な授業に3つの視点(主体的、対話的、深い学び)を取り入れた改善
	<p>めざす授業の姿</p> <p>【主体的な学びをめざした授業づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」をめざした授業づくり。 ・子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める「対話的な学び」をめざした授業づくり。 ・習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考え形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」をめざした授業づくり。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 城西中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
5	生徒の学ぶ意欲の向上と学力の確実な定着・向上	★	継続	主体的な学びをめざした授業づくりの推進 【小中一貫】	○全教科で、問題解決的な学習を行う。 ○結論から単元構成を行う「逆さ論」を基底に単元指導計画を考え、授業実践を行う。	△全教科の定期試験の通過率。「知識技能60%」「思考判断50%」以上。 △学力の伸びを把握する調査において、「学力を伸ばした生徒の割合」を70%以上にする。							
5	自己指導能力(コミュニケーション・表現力・忍耐力)の育成		継続	生徒の自主的・主体的活動の推進	○生徒と共に創る学級・生徒会活動と学校行事の更なる充実を図る。 ○リーダーの育成(生徒会執行部・学級委員・部長等)を図る。	△生徒アンケートで「学級での係活動を確実に取り組んでいる」「学校行事に主体的、積極的に取り組んでいる」と肯定的に評価をする生徒を90%以上にする。							
				誰もが安心して生活できる学級・学年集団の確立	○学級・学年活動、学校行事等で生徒どうしをつなぐ取組を充実する。 ○保護者、関係機関等との連携の強化を図る。 ○面談ウィークを実施する。(学期に1回)	△新規の長期欠席者(不登校)を0名にする。 △生徒アンケートで「安心して学校生活を送ることができている」「困ったときに相談できる人がいる」と肯定的に評価をする生徒を95%以上にする。							

2	生徒支援体制の確立と信頼される学校の実現	継続	生徒支援のための環境づくり (業務改善)	<p>○各種報告や起案の日程一覧を作成・提示し、全職員の計画的な業務の遂行を進め、生徒に関わる時間をつくる。</p> <p>○日々の入退校時間入力を徹底し、在校時間把握を丁寧に行い、在校時間の縮減、職員の健康維持、業務改善を図る。</p>	<p>△月の勤務時間外在校時間が45時間を超える職員を昨年度の半数にする。</p> <p>△仕事にやりがいを感じる職員を100%にする。</p>														
		継続	不祥事未然防止の体制づくり	<p>○不祥事防止目標を定期的に設定し、職員室に明示することで、職員の意識の高揚を図る。</p> <p>○職員によるサービスに関する研修を年4回実施し、教育公務員としての自覚を醸成する。</p>	<p>△不祥事に関するヒヤリハット事例をゼロにする。</p> <p>△教職員アンケートを学期に一回実施し、「教育公務員としての自覚と使命感を持って行動している」と肯定的に評価する教職員を100%にする。</p>														

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。